

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		児童発達支援・放課後等デイサービス デフキッズ				公表日	2026年2月27日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		目的に応じて部屋を分けられている。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		適切である。	職員が急に欠勤した場合の人数確保が課題。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		○	2階にあるため、スタッフが必ず付き添い、安全確保をしている。障害の特性に応じ、視覚で分かるよう伝達・配慮している。	2階にあるため、小さい子どもにとってはバリアフリーに適した場所ではない。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		毎日の掃除で清潔、かつ心地よい空間である。	おもちゃでごちゃごちゃしている。整理整頓ができるようにおもちゃの数を厳選してほしい。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		3つの部屋をその都度個別の部屋としても使用できる環境である。 1階に病院があることから、病院が休みの時は遊びのスペースになるが、そうでない日は学習室として使用している。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		朝昼礼やミーティングで振り返り、および対策を実施している。	数回出勤の非常勤に関してはLINEワークスでの議事録による情報共有を図っているが、十分とは言いきれないところもある。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		定期的に評価表を示し、保護者からの意見を反映できている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		日々の昼礼で職員の意見を把握・共有が出来る。	個別に対応する場合はあるが十分とは言いきれないところもある。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		第三者による外部評価は行ってはいない。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		定期的に研修(内外)が実施されている。絵本の読み聞かせの研修に参加。子どもたちの読み聞かせの意識が変わった。		
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		各職員の意見、評価をもとに支援計画が作成されている。 計画後取り組んだ結果がどうなったか、また達成度や職員のコメントを書くプリントがあるため、情報共有があっている。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		日々の支援での気づき、意見等、全職員での共通理解がおおむねできている。 子どもの様子に合わせて支援方法を変えたり、そのまま様子を見たりしながら行われている。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○				
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		企画で地域と連携できる機会があり、行事計画の中にも流れが書かれており、支援内容も表示されている。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○				

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○	職員間で個々の意見が出され、工夫されている。様々な活動を子どもたち自身にも行きたい場所やしたいことなどを聞きながら計画している。	子どもの好みや性格によっては活動プログラムの内容が繰り返しのようになってしまったりあるが、できるだけ幅広い活動ができるようにしている。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○	朝昼礼などを活用して情報共有し、チームで支援出来ている。打ち合わせ、支援内容、役割分担はとてよくできており、非常勤のスタッフにも必ず伝えている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○	日誌などを活用したり、翌日以降の朝昼礼で情報共有を実施している。振り返り、反省や実際支援をしていて各自どのような気づきがあったかをしっかり話し合っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○	日誌の活用、定期的な昼礼などでミーティング（支援のあり方）を実施している。	一部職員による日々の記録の更新が毎日行われていない状況が散見される。記録の方法について改善してほしい。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○	鹿児島聾学校幼稚部と連携を図っている。併行利用について、別の施設と支援の内容について、情報共有している。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		対象児がいない。もし対象児がいれば、情報共有をしていきたい。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。			
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。			
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。			
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○	児童発達支援センターと連携はとっていないが、ろう児の専門家から指導やアドバイスを受けている。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○	公園で地域の子どもたちと一緒に遊ぶといった自然な形の交流がある。	ろう児の気持ちを考え、コミュニケーション環境に配慮した活動を行う必要がある。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○	毎日送迎時に保護者へ報告を実施している。特に気になることや早めの対応が必要な場合、施設長より報告。話し合う機会があり、保護者からの悩みの相談や家での様子などもよく情報が入る。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○	家族支援という広い意味での企画(親子で絵本読み聞かせ)を実施した。また、鹿児島聾学校で開催している保護者対象手話講座に当事業所のスタッフが指導している。		

保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		必ず設けており、達成できているか否かのプリントを作成し、全職員に記入するよう配布されている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		ろう児専門の専門家や団体との連携によりスーパーバイズを受けている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		その都度相談に応じ、スタッフ間で共有。対策がはかれている。 面談はもちろんのこと、迎えに来た保護者のちょっとした相談にも直ぐに対応している。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○		絵本読み聞かせ企画で実施したが、幼稚部からの参加者は1名と少なかったため、達成しているとは言えない。 今後さらに取り組みが必要ではないかと感じる。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		InstagramやLINEワークスで活用している。 積極的にSNS等で活用し、保護者等に発信出来ている。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		SNS等写真掲載に十分留意し、個人情報もしっかり守られるようになっている。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		意思の疎通は全て手話筆談、連絡帳やお知らせなどで行われ、配慮されている。	
非常時等の対応	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○	1日開所においての野外活動や、平日は近くの公園やお店などを積極的に利用している。 買い物体験をすることで、こういう施設があることは伝えている。	今後、地域住民との関わり方について、どのような交流の方法があるか検討すべきだ。 ただ機会が少ない。
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○			
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○			
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。		○		共有出来ているが、文字化した方がヒヤリハット文書として対策、検討しやすいと思う。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○			
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○				